

国内損保事業

Q: 損保ジャパン日本興亜の E/I 損害率(除く国内自然災害)の通期見通しを下方修正した要因は。

A: 国内の大口事故の発生を保守的に見込んだことが主因である。中間期までの大口事故の発生損害額は 16 億円であったが、通期見通しにおいては、例年の倍程度発生した前年度の実績(250 億円程度)と同額程度を織り込んだ。中間期以降も一定の事故の発生を認識しているものの、保守的な見込みと言え、これが E/I 損害率を押し上げている。その他では、海外で発生したメキシコ洪水なども影響している。

Q: 火災保険の異常危険準備金のネット取崩額が増加しているが、特別積立は行わないのか。

A: 異常危険準備金の残高の状況によっては、一時的に特別積立を行う可能性はあるものの、収益バランスにも配慮しながら総合的にあらゆる選択肢を検討することになる。

Q: 今回の台風により次年度以降の出再コストは増加するのか。出再戦略に変更はあるか。

A: 現在、出再戦略を検討中であり、次年度以降の出再コストのインパクトについては未定である。再保険は複雑に組み合わせてスキームを構築しているため、市場の状況に連動して即座に出再コストが増加するというものでもないと思う。出再戦略については、資本に与える影響を一定程度に抑えることを第一に、単年度決算のボラティリティを抑制することなども踏まえて決定しているものであり、こうした方針に変更はない。併せて、元受レベルでの火災保険の商品・料率の適正化なども検討していくことになる。

海外保険事業

Q: Sompo インターナショナル(以下、SI)の業績について、トップラインを下方修正したが、レートアップ効果を見直したこと以外のオーガニック成長の要因はどの程度か。また、損害率の見通しは概ね据え置いたが、海外自然災害の予算と足下の状況を教えていただきたい。

A: グロス保険料は、期初、対前年比+34%成長を見込んだ。このうち、Sompo アメリカなどの統合効果+13%、レートアップ効果+11%、オーガニック成長+10%強と想定していたとご説明した。今回予想では、対前年比+25%の成長に修正したが、統合効果は概ね期初想定通りを見込む一方で、レートアップ効果は足下の状況を踏まえ+6%程度、オーガニック成長は+6%程度に修正した。オーガニック成長は、収支を意識して引き受けを行う中、財物保険などを中心に SI の収支基準を満たさない契約について引受けを厳格化している要因などもある。損害率については、期初の 60.4%の想定から 60.6%に見通しを微調整した。SI の海外自然災害予算については、中間期までの海外自然災害の発生は少なかったものの、下期に発生したハリケーン(マイケル)で一定額の損害を見込むことなどを踏まえ、期初想定海外自然災害予算 260 億円については据え置いている。

株主還元

Q: 今回予想の修正利益は 1,050 億円に対して総還元性向を 50%とすると、自社株買いの余地がなくなるようにも思うが、今期の総還元性向についての方針は。

A: 総還元性向については、中期的に 50%を目指すとしており、実際に過去 4 年は 50%とした。総還元性向 50%に対する経営陣のコミットメントは強いと投資家・株主の皆さまにも認識されていると思う。一方で、大規模な雪害が発生した 2013 年度の総還元性向を見て頂くと、安定配当等を維持するため 220%の総還元性向とした。一時的な要因による還元原資の変動に対しては総還元性向を 50%超とするなど、柔軟に対応してきたということである。したがって、今期も 50%超の総還元性向は選択肢の一つになる。株主還元方針に関する経営陣の気持ちとしては、後退させたいとは思っていないことを申し添える。

Q: 自己株式の消却を決定した背景は。

A: これまでも取得した自己株式について、市場に再放出する意図はないことを説明してきたが、今期の自己株式取得の結果、累計の取得割合が発行済株式総数の 10%を超過したこともあり、社外取締役から質問があったり、投資家・株主の皆さまと自己株式の取扱いについて意見交換をする機会が増えた。そうしたご意見などを踏まえ、今回、株主還元目的で取得してきた自己株式のすべてを消却することとした。

以 上